

## めざすは

## ごみ一つないまち

## 吉岡温泉町

鳥取市で平成九年四月から始まったごみの分別収集。この四月からは、新たに可燃ごみの指定袋制度とペットボトルの分別収集もスタート。ごみ分別の徹底を図ろうと、市内の各地区で地道な取り組みが行われている。

ごみ袋には  
それぞれ名前が

鳥取市の奥座敷「吉岡温泉」。ここでも、町内会を中心にごみ分別の徹底に取り組んでいる。

取り組みがスタートしたのは平成九年四月。以来、収集日には、町内に五カ所あるごみステーションにそれぞれ二、三人の役員が出て、出されたごみの分別作業を行っている。また、分別方法を分かりやすく説明した町内会独自のチラシも年四回、全戸に配布するなど、住民の分別への意識啓発にも力を入れている。

実際の作業のようすを見た。

一人ひとりの意識が高まれば、この作業も必要ない

小雨の降る中、役員さんたちが分別ができていくかどうかの確認を行っている。ここでは、普段よく目にする黒いごみ袋が全くない。実は、吉岡温泉町では可燃ごみは青、不燃ごみは白のそれぞれ半透明のごみ袋を使い、それ以外は使わないように決めているとのこと。さらにその袋をよく見ると、出されたごみ袋にそれぞれ名前が書いてある。「自分の出すごみの分別には責任を持ってもらおうということです。」と総区長の安藤健二さん。一〇〇%とはいかないが、今ではほとんどの袋に名前が書いてあるとのこと。

「特にプラスチックごみの分別が悪いですね。小型破碎ごみの区別が難しいみたいで。発泡スチロールと白色トレーが一緒になって入ることも多いです。」とある役員さん。たしかにプラスチックごみと小型破碎ごみの分別は、なかなか厄介だ。特に高齢者にとっては、その区別が難しい。加えて、スーパーなどの買物袋に入れて出されるごみもかなり多い。中が見えないうえに固く結んであり分別作業も手間がかかるとのこと。新しく始まったペットボトルの分別も、定着するにはまだまだ時間が必要のようだ。

一人ひとり  
意識が高まるまで

役員を中心にした地道な努力もあり、以前に比べれば分別ができていないためにステーションに取り残されるごみ袋も少なくなった。少しずつではあるが住民一人ひとりの分別意識も高まってきている。しかしその反面、「役員さんがしてくれる」という意識が一部の人たちにあっても事実だ。「役員を経験して分別やごみを出さないようにすることを考えるようになりました。」という言葉に一同うなずいた。

これからの課題をみなさんに聞いてみた。環境保健部長の石黒孝司さんは言う。「一人ひとりの意識が高まるまで、細く長く取り組んでいくしかないですね。次の時代を担う子どもたちにも、リサイクルの大切さなどをしっかりと教えていくことで、将来的にごみを出さない社会のしくみを作ることが必要だと思えます」。現在は、「ごみ減量化などに取り組んでいる他のまちの事例を参考にしながら、試行錯誤を重ねている状態だ。」めざすのはごみ一つないまちです。吉岡温泉町の地道な取り組みは続く。